



9/5  
(日)

## 山形屋で作品展示即売会 社会の一員として共に

9月1日から6日まで、鹿児島市にある山形屋1号館で「第32回在宅知的障害(児)者作品展示即売会」が



作品を手にする来場者ら

開催され、長島町から長島福祉作業所ぼんぼこ村が参加しました。

これは、県手をつなぐ事業所協議会が主催で、障がいのあるかたも障がいのないかたも共に家庭や地域において、通常の生活ができる社会づくりを定着させたいと始まりました。

会場には、普段の生産活動の中で作成した木工製品のリモコンスタンドや手芸品、利用者のかたが描いた絵などが展示されました。

大堂和枝理事長(浜瀬)は「コロナ禍で今まで開催されていたイベントが次々と中止になり、活動を紹介する機会が減り残念に思っていた。今回のイベントを通じて、社会参加の機会をつくれたら」と話しました。

9/6  
(月)

## たのしい子育てコンクール受賞 家族で話し合っ

伊唐小学校(山口陽校長・14人)6年生の鴨川<sup>あきら</sup>柊真<sup>しゅうま</sup>君が鹿児島県PTA連合会の「令和3年度たのしい子育てコンクール子育て三行詩」で佳作を受賞しました。

これは平成22年から親子のコミュニケーションによって育まれる家族のきずなや家庭でのルールづくり、子どもたちの基本的な生活習慣づくりなど、親子で話し合い、一緒に取り組むことの大切さを社会全体で呼び掛けていくために始まりました。

鴨川君は「受賞したと聞いて驚いた。自分のことを書いたら面白いと思い、お母さんと一緒に考えた」と

喜びをあらわにしました。

今後、鴨川君の作品は日本PTA全国協議会にて審査されることとなります。



喜びをあらわにする鴨川柊真君

9/15  
(水)

## ボランティア養成講座 支え合いの輪を広げよう



熱心に耳を傾ける受講者ら

9月15日、町社会福祉協議会と町地域包括支援センターの共催で「令和3年度地域支え合いボランティア養成講座」が行われました。

今回は高齢者ボランティアをテーマに、認知症サポーター養成講座や、いざという時のための救命講習などが行われました。

講座では、地域で悩みを抱えながら生活しているかたを理解し、助け合いや支え合いの活動が広まることの重要性に触れました。受講者らは、登壇者の話に聞き入っていました。

同協議会の小城睦佳さん(本町)は「高齢者の見守りは、何気ない毎日でもできる。まずは、身近なことから始めてもらえたら」と話しました。